

再び四面体の問題へ！



四面体 OABC は次の 2 つの条件

(a) $OA \perp BC$, $OB \perp AC$, $OC \perp AB$ (b) 4 つの面の面積がすべて等しい

を満たしている。このとき、この四面体は正四面体であることを示せ。(京都大学)

解1 **証明** $\overrightarrow{OA} = \vec{a}$, $\overrightarrow{OB} = \vec{b}$, $\overrightarrow{OC} = \vec{c}$ とする。

条件 [a] において、 $OA \perp BC$ から $\vec{a} \cdot (\vec{c} - \vec{b}) = 0$, ゆえに $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{c} \cdot \vec{a}$

同様に、 $OB \perp AC$ から $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c}$, $OC \perp AB$ から $\vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a}$

ゆえに $\vec{a} \cdot \vec{b} = \vec{b} \cdot \vec{c} = \vec{c} \cdot \vec{a} \dots\dots ①$

条件 [b] から $\triangle OAB = \triangle OBC = \triangle OCA$

$$\frac{1}{2} \sqrt{|\vec{a}|^2 |\vec{b}|^2 - (\vec{a} \cdot \vec{b})^2} = \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{b}|^2 |\vec{c}|^2 - (\vec{b} \cdot \vec{c})^2} = \frac{1}{2} \sqrt{|\vec{c}|^2 |\vec{a}|^2 - (\vec{c} \cdot \vec{a})^2}$$

① から $|\vec{a}| |\vec{b}| = |\vec{b}| |\vec{c}| = |\vec{c}| |\vec{a}|$, よって $|\vec{a}| = |\vec{b}| = |\vec{c}|$

ゆえに $|\overrightarrow{OA}| = |\overrightarrow{OB}| = |\overrightarrow{OC}| \dots\dots ②$

ここで、条件 [a], [b] の O, A, B, C に関する対称性から

$$|\overrightarrow{AO}| = |\overrightarrow{AB}| = |\overrightarrow{AC}| \dots\dots ③$$

$$|\overrightarrow{BO}| = |\overrightarrow{BA}| = |\overrightarrow{BC}| \dots\dots ④ \quad \text{が成り立つ.}$$

②, ③, ④ から $OA = OB = OC = AB = BC = CA$

ゆえに、四面体 OABC は正四面体である。 **終**

解2 **証明** 上の①までは、**解1** の証明と同じとする。

$\angle AOB = \alpha$, $\angle BOC = \beta$, $\angle COA = \gamma$ とし、①より、

$$OA \cdot OB \cos \alpha = OB \cdot OC \cos \beta = OC \cdot OA \cos \gamma \dots ⑤$$

α, β, γ のうち 1 つでも鈍角があると、

内積が負の値となり、⑤ が成り立たない。

全部鋭角か、全部鈍角しかない。

後者であると図 1 のように、

頂点に鈍角が集まり、底面の三角形の面積のみ大きくなり、

[b] と矛盾する。

よって、 α, β, γ はすべて鋭角である。

$\triangle OAB = \triangle OBC = \triangle OCA$ より、

$$OA \cdot OB \sin \alpha = OB \cdot OC \sin \beta = OC \cdot OA \sin \gamma \dots ⑥$$

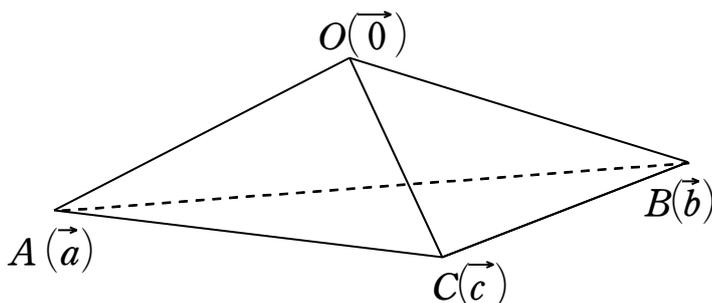
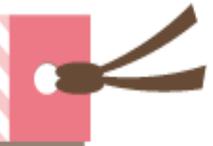


図 1

山脇の超数学講座 No. 73



①² + ②² を計算すると、

$$OA^2 \cdot OB^2 (\cos^2 \alpha + \sin^2 \alpha) = OB^2 \cdot OC^2 (\cos^2 \beta + \sin^2 \beta) = OC^2 \cdot OA^2 (\cos^2 \gamma + \sin^2 \gamma)$$

よって、 $OA^2 \cdot OB^2 = OB^2 \cdot OC^2 = OC^2 \cdot OA^2$ 、 $OA > 0$ 、 $OB > 0$ 、 $OC > 0$ だから、 $OA = OB = OC$ 、以下は、解1の証明と同じとする。 **終**

それに対して、「初等幾何 (ユークリッド幾何)」で解く方法があるはずであり、それを探究したのが次の 解3 です。

解3 **証明**

頂点 B より辺 OA に垂線を引き、 OA との交点を M とすると、 $OA \perp BM$ 、 $OA \perp BM$ より、 $OA \perp$ 平面 BMC 、よって、 $OA \perp CM$ 、

$\triangle OAB$ と $\triangle OAC$ は辺 OA を共有していて、かつ

$$\triangle OAB = \triangle OAC \quad (\text{面積が等しい})$$

より、 $BM = CM$ …… ⑤

次に、頂点 O より辺 BC に垂線 ON を引くと、

$BC \perp OA$ 、 $BC \perp ON$ より、

$BC \perp$ 平面 ONA 、ゆえに $BC \perp AN$ 、

$$\triangle OBC = \triangle OCB \quad \text{より、} \quad ON = CN \quad \dots\dots \text{⑥}$$

$\triangle BMC$ は⑤より二等辺三角形で、かつ $MN \perp BC$ より、 $BN = CN$ …… ⑦、

同様に、 $OM = MA$ …… ⑧、

$\triangle OBC$ で、 $ON \perp BC$ かつ ⑦ より、 $OB = OC$ 、

$\triangle ABC$ でも同様に $AB = AC$ 、

$\triangle BOA$ 、 $\triangle COA$ でも同様に $BO = BA$ 、 $CO = CA$ 、ゆえに、

辺 OA 、 BC 以外の辺はすべて等しくなる。つまり、 $OB = AB = AC = OC$ 、

続いて、 $OB \perp AC$ を用いて、上と同様なことを行くと、辺 OB 、 AC 以外の

辺はすべて等しくなり、 $OA = AB = BC = OC$ 、

以上より、4つの面はすべて正三角形となるから、

四面体 $OABC$ は正四面体である。 **終**

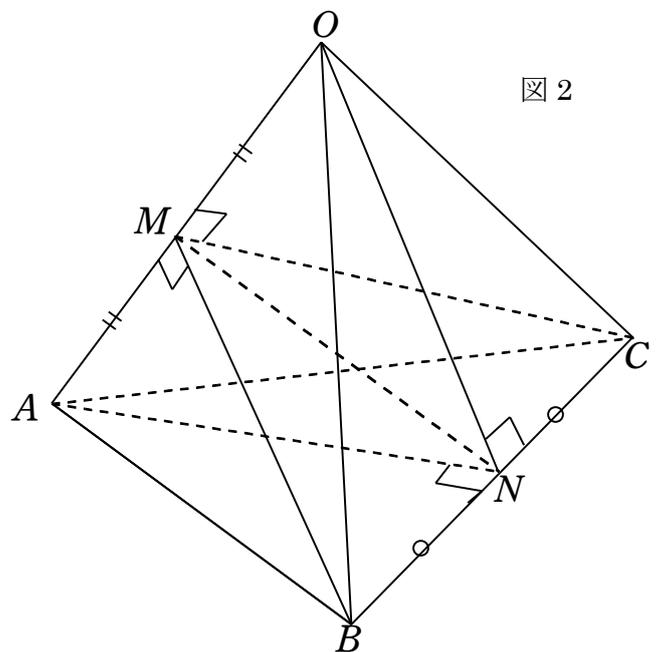


図2

コメント

証明をよく眺めてみると、四面体にとって、[a] はかなり特別な条件です。つまり「向かい合う3組の辺 (対辺) はすべて垂直である」。あとはこれに「[b] 4つの面の面積が等しい」という条件をどう組み合わせていくかが、証明3の核心となるところです。結局、二等辺三角形の性質をうまく利用して「すべての辺が等しい」につなげているのです。 以上